



Nihongo Network News

2000.9.29発行

No. 28

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1メールボックスNo.4

東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171

各地の日本語ボランティア講習会を TNVNがサポート。



（財）羽村市コミュニティ振興公社国際交流部

（財）羽村市コミュニティ振興公社国際交流部が主催する「日本語会話ボランティア養成講座」が、8月9日から30日まで4回にわたって開催されました。

財団ではボランティア活動支援の一環としてボランティア養成講座を開き、多くの市民が参加しています。東京日本語ボランティア・ネットワークは財団の依頼を受けて、前回に引き続き「日本語ボランティア養成講座」を担当しました。

内容は、①ボランティア日本語教室の現状、②学習者はどのような人々か、③ボランティアが行う日本語学習支援とは、④どのように日本語学習を支援しているか、の4テーマで、TNVNの入門講習会講師が担当。合わせて地域で活動経験豊かなTNVN運営委員がボランティア活動の事例を報告しました。

受講者は羽村市と周辺の市町村から広く参加した方々で、職場や地域で外国人と接している人から新たに活動を始めたい方々まで20数名。講座を通し日本語ボランティアへの関心

の高さを感じられました。TNVNでは東京・飯田橋で定期的に日本語ボランティア入門講習を開講していますが、今後も各地の日本語ボランティア養成講座のお手伝いをしていきたいと考えています。

（梶村 勝利）

財団法人勤労者リフレッシュ事業振興財団

仕事を持つ人たちのボランティア活動を推進するための支援などを行っている、財団法人勤労者リフレッシュ事業振興財団 勤労者ボランティアセンターが、「勤労者のための日本語ボランティア入門講座」を下記の内容で開催しました。この講習会は7月3日～31日の毎週月曜日(全5回)で、TNVNから数名が講師として参加。受講者は45名にもものぼり、毎回活発な意見が飛び交っていました。

今回の講座を受講された方の中から、一人でも多くの方が日本語ボランティア活動に参加してもらえれば、

TNVNとしてもたいへんうれしい限りです。頭で考えるよりも、初めの一步を踏み出して！

（橋本 佳子）

- 第1回（7/3）
ボランティア日本語教室の現状と日本語ボランティアの事例報告
- 第2回（7/10）
日本語学習を支援すること
- 第3回（7/17）
学習者の現状と学習者（外国人等）の話
- 第4回（7/24）
日本語ボランティアについて
- 第5回（7/31）
日本語学習をどのように支援しているか

交 差 点

ネットワーク
情報交換会レポート

●第13回ネットワーク情報交換会

日時：2000年7月21日(金) 18:00~20:00

会場：東京ボランティア・市民活動センター 会議室

小学校における日本語学習支援について

国際化のなかで両親といっしょに来日し、日本の小中学校に就学する児童が増加していますが、日本人と学習を共にする中でまず直面するのが日本語の壁です。そこには一般の学習者のケースとは違った問題もあるようです。

そこで今回は、日本語ともの会の山本さんの東京都北区のケース、MIFAの三村さんの町田市のケースについての事例報告をもとに話し合いをしました。あわせて、CCSの和田さんから子どもだけを対象にした活動の問題点についてをお聞きしてみました。

1. 北区の小学校の事例

【自治体としての対応】

外国人児童は北区教育委員会が窓口となり地域の小学校を紹介し、学校長と面談し入学する。日本語学習は北部(第三岩淵小/西が丘)と南部(西ヶ原小/西ヶ原)の2ヶ所の教室で、「とりだし」の形で行われている。

入学した児童を対象に日本語適応指導教室(日本語学級)があり、区委託の指導担当員が各所2名ずつおり、児童は現在両方で28名。週2回・1日2時間(1H:45分授業)で2年間を限度(一応の目安)とし、1・2年生は派遣(親の責任において通級も可能)、3年生以上は通級となっている。給食はコミュニケーションのため各自の学校でとる。直接法で指導し3ヶ月位で学校生活の会話を学習する。

【ボランティア教室での対応】

学齢の学習者が参加した場合子どもの保護者に入学をすすめ、保護者と子どもを連れて区教育委員会に行き、手続きするようにしている。

学齢を過ぎたが(日本の)義務教育を受けていない学習者で日本に永住すると思われる人には、荒川区立第九中学校の夜間部を紹介している。

ボランティア教室では児童が楽しみながら学習できるようカード・絵を使ったりゲーム的なことをしたり、大人の学習者に通訳を頼みながら共に学習する。

2. 町田市ボランティア団体MIFAの事例

教育委員会・教育研究所(教職をリタイヤした人が在籍)からボランティアセンターを通じてMIFAへの要請があり、ボ

ランティアが学校へ出向く方法が採られている。

当初は基本的な日本語会話を3ヶ月で学習していたが、それでは無理なので現在は6ヶ月間に延長している。

日本語が全くできない子どもには日本語教室に来ている日本人を同伴し対応すると子どもも安心するようだ。子どもの状況にあわせてさまざまな工夫をしながら対応し、教育委員会などのボランティアに対する評価認識もやっと定着してきたようだ。



3. CCS (世界の子どもと手をつなぐ学生の会)

CCSでは外国人児童の家庭学習を支援する活動が中心で、児童は中国(台湾含)、南米(日系が多い)、フィリピン等が多い。

週に1回が原則で、1時間半~2時間位、各家庭に出向いて教科・進学指導をし、最近では学校や教育委員会と相談し、「とりだし」「ひつつき」や学校と保護者との情報の受け渡しも積極的に行っている。

【児童の日本語学習支援における問題点】

①学習言語の難しさ→つまずきのもと

「～の～を解け」「図示せよ」「述べよ」等のテスト用語・授業用語・教科書の表現など

②教科学習の遅れ→カリキュラムの違いによる遅れ

日本の教育システムは積み上げのピラミッド式で、途中からの学習では基礎の学習が違っていたりなかったりすると学習についていけなくなる。

③差別によるいじめや問題行動

カタカナの名前や髪や目の色といった見た目の違いからいじめにあい、問題行動に走ったり、自分の文化を否定したりしてしまう場合もある。

④日本の教育に対する親の理解不足

学校でのプリント等が難しすぎて正しく理解できない。また、保護者会等にも仕事の都合や日本語に対するおそれ等が出ていけない。



ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立った教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

ボランティアからの提案

「ひらがな」を書く

船橋 恵子 / 弥生日本語の会 (文京区)

日本語の文字学習は、ひらがなからが一般的だと思います。ボランティア日本語教室でもそうだと思いますが、ここでその是非・理由には触れません。漢字学習は難しいとよく言われますが、ひらがなが難しいという声はあまり聞きません。ひらがなの習得が日本語学習開始前の自習事項になっている教育機関もあるくらいです。テキスト類も最初に五十音表と書き順の説明があるくらいが普通ですから、ひらがなの学習はやさしいのでしょう。やさしいひらがなを書くのがもうちょっとやさしくなればと考えてみました。

ひらがな学習に、筆ペンを活用

考えるきっかけは「ひらがなは読めます。書けます」と自信たっぷりに話してくれた学習者の書いた字に出会ったことです。間違っているわけではないし、読めなくもないのですが、なんとなく変でおちつかないのです。学習者によってはプライドが高く直されるのを快く思わない人もいます。何がおかしいのかこのままでよいのか、戸惑いました。

改めて説明するまでもありませんが、ひらがなは漢字の草書体から日本人が創りあげた文字です。その線や動きは筆のものですから、代わりに筆ペンを使います。初めて筆ペンを持った学習者はおもしろがっていろいろ書きだします。まず、ひらがなには、止め・はね・払いがあることを知らせます。筆記具をシャープペンやボールペンに替えて、同じように止め・はね・払い

を意識して書いてもらいます。筆ペンを使わない時も止め・はね・払いと発声しながら、線に違いのあることを伝えます。

この段階の学習者から、「そ」・「そ」、「り」・「り」、「さ」・「さ」、「こ」・「こ」などが違う字かとよく質問されます。ゴシック体や教科書体といった字体の違いの場合もあるでしょうが、目の前で筆ペンで書いて見せ、筆のかすれが字のデザインの違いになったのが分かって納得してくれます。同時に、ひらがなは上から下、左から右に書くことも確認します。世界には右から左に書く文字や引っかけような書き方の文字もあります。なぜか豆粒のような小さな字を書く学習者もいますから、空中書きで手の動きを練習したり、筆ペンで遊んだりして、慣れてから書き始めます。

五十音順より、書きやすい順番で

書き順が違っていたり、バランスが悪いと変な字に見えることがあります。直線と方形の枠に納められた漢字に対し、直線と曲線が結ばれてはほどけそうなひらがなは形がとりにくいと言われます。「あ」も書きにくい字だと思いますが、五十音順で書き進めれば最初に来るわけです。もっと簡単な動きの字からスタートと、次表の順を試しました。

し・つ・く・へ・て・と・い・り・こ・う・え・ん・よ・ま・ほ・は・け・さ・き・に・た・な・を・ら・ち・せ・ろ・る・も・す・む・み・の・め・ぬ・わ・ね・れ・や・か・あ・お・そ・ゆ・ひ・ふ

この順で始める場合、学習者がはっきり五十音をマスターしていないこともありますから、一字が一音であることや提出字と音があっているかを忘れず確かめます。空欄の五十音表用意して書ける字を埋めていくのも、達成度が見えて効果的です。学習者は大人の場合が多いので一字一字細切れで進めるより、言葉(単語)で覚えるほうがよいと思います。し・つ・くの3字が出たところで、くつ(靴)くし(櫛/串)ができますから、あれば写真や実物を示しながら声を出して書きます。つくし(土筆)は知らない人もいますから、相手により考えます。し・つなど似ている字は元になった「之」「川」からの変化を紹介することもあります。形のとりにくい字を書く場合は、「あ」ならば「の→め→あ」の順に書いてみます。「れ」は「わ→ね→れ」、「を」は「と」を意識させてみるなど、似ている字をとりだします。

文字学習の負担を少しでも軽く

単純な線や動きの似ている字を並べてみましたが、まだまだ検討の余地がありそうです。問題点は、最初の「し・つ」が発音しにくい音であることです。止め・はね・払いに関しても、便宜上、止め・はね・払いとしましたが、こだわる必要はないと思っています。ことに、ひらがなの中で「はね」のある字は「か」だけだそうで、「は・け・い」などは「次の線へ移るとき『はね』に近い形の終筆をとることがある」と書写の本に説明されています。何が違うのか区別できませんし、余計な「はね」ははねたほうがすっきりします。初歩の学習者にとって、特に大人の学習者は母国語の文字学習の経験から文字に頼りがちです。学習者の負担が少しでも軽くできればなによりです。

今年はミレニアムとやらで、2000円札が発行されました。もうご覧になった方も多いたと思いますが、裏面のデザインに明治時代の兌換券以降、わが国の紙幣に初めてひらがなが登場しました。威張り文字とも言われる隷書体の漢字のなかで自由奔放にふるまう「ひらがな」をたっぷり楽しんでもらいたいと思っています。



日本語を教えるのは難しい、 けど、楽しい！

日野市国際交流協会 支援部 (日野市)

平井周子

初めまして、こんにちは。

日野市国際交流協会は、その名の通り国際交流を目的とした活動を行っています。日本語はそのなかの、「支援部」が教えています。

日本語学習会は週4日、各2時間ずつ。曜日により、学習者も、ボランティアも異なりますが、なかには、4日とも通っている頑張り屋さんもあります。学習会の雰囲気はいつも和気あいあいと賑やかです。ブレイクタイムにはさまざまな国の方たちと、情報の交換をしたり、相手の国について教えてもらったりします。時には、生活上のことや、日本の事情についての質問や相談を受けたりしますが、それをサポートするのも支援部の活動の一部です。

日本に来て、なかなか友人ができず、外出もせず、家の中にばかりいたという人が、学習会に通ううちに、友人もでき、楽しそうにしているのを見ると、心からよかったですと思います。

日本語を教えるために、学習者にあった資料を探したり、ボランティア自身学習したり確認しあったりと下準備をし、学習会に臨みますが、互いに何度

もつまずいていた点がクリアになると、みんなの顔がパッと輝き（あるいはほっと安らぎ）やってよかったと思います。

国際交流協会のイベントに学習者といっしょに参加するのも、楽しみのひとつです。



ヒットはお茶会、 全員が正座…

虹の会 火曜クラス (港区)

長 治子

“Rainbow” 雨あがりの空に思いがけなく見つける七色の虹のような…虹の会は、平成8年12月、港区女性センター主催によるボランティア講座を修了したボランティアによってスタートしました。殆どのボランティアが、海外国内で外国人にお世話になった経験から、私たちから何か今出来ることでお返ししたい、と考えた至極まじめなボランティアと学習者の集まりです。

現在のクラスは初級3クラス、中上級3クラスの2～3人のグループレッスンです。

お国柄は様々、昨日来日したという方から、40年も日本に住んでいる方、学者志望、日本語教師志望、カラオケ大好きのかわいい主婦と、いろいろな方が集まります。そんな中で、最も気を使うのは、目的と興味、レベルに合わせた組み合わせをすること。さんざん迷ったあげく決めた組み分けも、次週から、“来られなくなりました”の一言で没になることもあり、近頃では、その時考えよう、何とかなる、の心境にいたりしました。

それぞれの目的に合わせたレッスンが基本ではありませんが、折りにふれて季節感を味わう行事、文化的な行事も採りいれております。年末には折り紙や筆をつかっての年賀状作り、雛祭りには小さなお雛様を飾って、築地の魚市場見学、4階一幕見席での歌舞伎見学など。最近のヒットは女性センター和室でのお茶会でした。全員が正座はできませんから、右左に足をくずし、なげだし、お抹茶を点てて、お互いに“大変けっこうなお味で”…和菓子は季節に合わせてよく登場します。日本語といっしょに四季おりおりの日本の文化も、ほんの少し味わってほしいと思っています。

新しく自信を持って

金正大／韓国（いっばのひろば）

に乗ったらいいですか”と日本人に聞いたこともあるぐらいだった。

その後、今、10カ月ぐらいの時間が流れた。けれどもなんとなく前より日本語に自信がない。このごろ感じているのだが、今まで持っていたのは自信ではなく自慢だったのでは？と思う。自信と自慢の意味を辞書で探してみたことはなかったが、自信の場合、その意味の中で、‘努力’という意味が含まれているのではないだろうか。

今では私は日本語がうまいとぜんぜん思わない。しかし今から新しく自信を持って努力と共に頑張るつもりだ。

日本に来る前、私の学部には日本語を勉強する人が少なかったので、友達の間で、私は‘日本語がうまい人’って呼ばれていた。日本語は勉強すればするほど、どんどんおもしろくなっていったので、本格的に日本語を勉強しようと思い、結局昨年10月1日、日本に来ることになった。本当の自分の実力を知らず、ただ自分の日本語能力を過信して来たので、始めから失敗だらけだった。成田空港に到着し、ピックアップもなく、地下鉄の地図を見ながら学校の寮まで来た。三田線（みたせん）の読み方も知らなかったので、“すみません、志村坂上まで行きたいんですがどこで‘サンダセン’

わるいことのない へいわな国に （青山日本語クラブ） ムーサ・ルトウブ / モルディブ

わたしはきょねんの9月に日本に来ました。わたしは日本に来るまえ、日本はとてもへいわな国だとおもっていました。3年前の子どもの首をきって学校においたじけんのとき、わたしの国の新聞には、日本人みんながびっくりしたことで、日本であまりなかったことだとかいてあったからです。

でも、日本に来てからたくさんいろいろなわるいことがあります。今、日本ではいろいろなどろぼうや、女の人をレ

イプすることや人をころすことが、どんどん多くなっています。

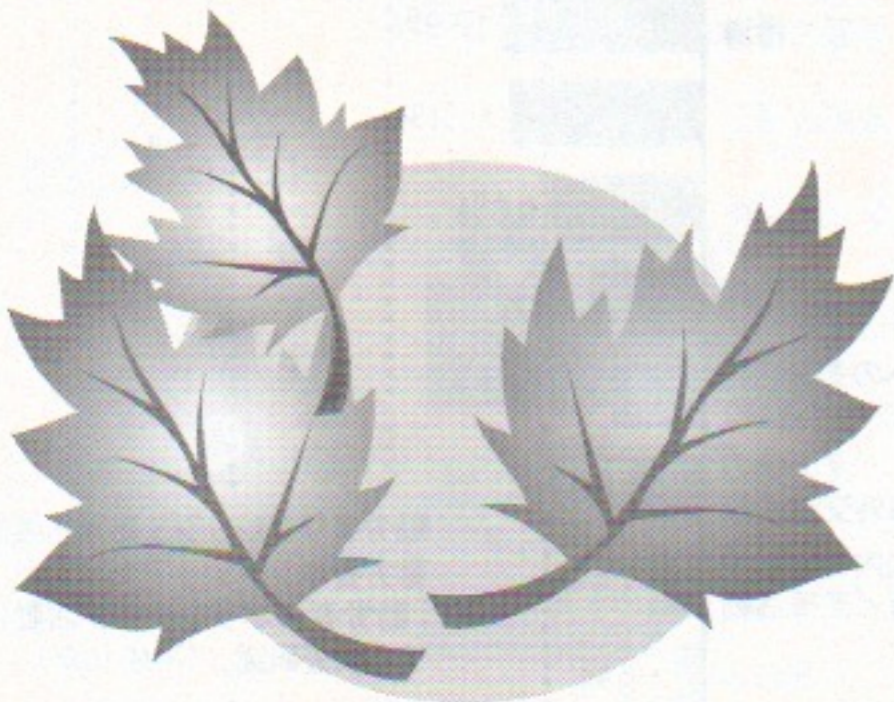
もし、わるいことにたいする強いほうりつを早くかんがえないと、日本はもっとあぶなくなるとおもいます。日本人はがんばってはたらいて、けいざいをせかいで一番にすることができたから、わるいことをなくすこともできるとおもいます。はやくほんとうにへいわな国になったところをみたいです。



日本語教授法等の学習経験もないままに、今の自分に何ができると、漠然とした気持ちで始めた日本語ボランティアも2年が経ちました。初めは、何をどう教えればよいのかも分からずに戸惑うばかりでしたが、ここまで続けてこられたのは、学習者との信頼関係、仲間の協力があつたからでしょう。その信頼関係は、あたりまえのことですが、できる限り学習者と会話する機会を持ち、お互いを理解しあい尊重することにあると思います。常に学習者が何を必要とし何を言わんとしているのかを理解し

ようとし、学習者も、素人の私ができる精いっぱい授業に対して感謝の意を表わしてくれます。また、ボランティア同士の協力、援助、団結は、私にやる気と責任感を与えてくれました。普段、日本語ボランティアとは関わりのない会社で働いている私は、週に一度、その日の仕事を終えてからボランティア会場へと向います。そこでは、日頃はあまり接点のない、幅広い年齢層のボランティアのそれぞれの考え方や取り組み方を見聞きすることができ、いろいろな意味で刺激を受けます。また、さまざまな背景や思考を持つ多くの学習者、ボランティアと接することで、人間本来のコミュニケーション、そしてそこから生じる人との繋がり的重要性・可能性を改めて学ぶこともできました。今後とも、コミュニケーション手段の一つ、しかし最も表現力の大きい、言語—日本語を学ぶ外国人をサポートし、生活する上で必要不可欠な意志・情報の伝達を手助けしていければと思っています。

コミュニケーションから ひろがる日本語ボランティア 佐々木恵（すみだにほんごボランティア21）



財団法人 勤労者リフレッシュ事業振興財団 勤労者ボランティアセンター

●所在地・連絡先／〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-21-1明宝ビル6F

TEL：03-5322-6667 FAX：03-5322-6110

E-mail:kinrouvc@mb.infoweb.ne.jp ホームページ <http://e-vc.cab.infoweb.ne.jp/>

●受付時間／9：15～17：30（月～金）

勤労者がボランティア活動に 参加しやすい環境づくりに向けて

本年7月、東京日本語ボランティア・ネットワークは勤労者ボランティアセンターより委託を受け、出前講座「勤労者のための日本語ボランティア入門講座」（全5回）を勤労者ボランティアセンターで実施しました。折からの猛暑にも負けず、仕事帰りの方たちが40名余、熱心に受講してくださいました。特に年配の男性の方たちの積極的な態度が印象的でした。この講座を主催した勤労者ボランティアセンターの活動を知りたいと、西新宿にある同センターの若嶋さんにお話を伺いました。

勤労者ボランティアセンターは、勤労者がボランティア活動に参加できるような環境づくりの推進を図ることを目的として、1993年4月、財団法人勤労者リフレッシュ事業振興財団（労働省関係法人 1992年4月設立）内に開設されました。東京のほかに、大阪にも相談センターがあります。

◎設立の趣旨・目的

労働時間の短縮が進み自由時間が増えることにより、勤労者のライフスタイルは今までの職場を中心としたものから、職場、家庭、地域社会などの間でバランスのとれたものに変化することが期待されています。

ボランティア活動は、自由時間の有効な活用の一つとして注目され、近年、勤労者のボランティア活動も広がりつつあります。

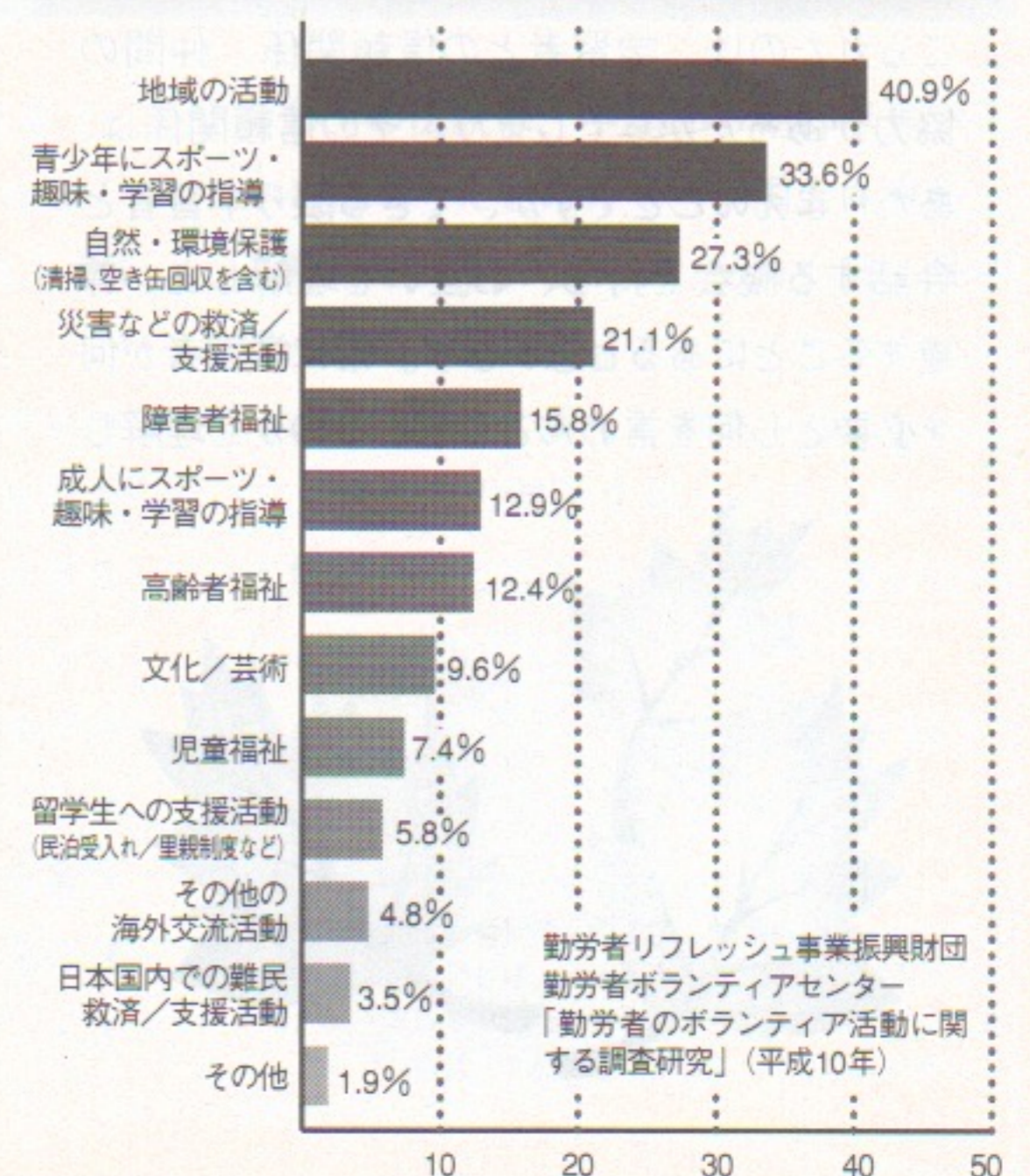
「生活大国5か年計画」（1992年 経済企画庁）の中でも「勤労者が企業から自由な立場でボラン

ティア活動等を行えるよう、休暇、資金等での支援策が期待される」とうたわれています。

勤労者がボランティア活動を行うことにより、日常の職場生活では触れることの少ない社会に視野を広げることや、地域社会とのつながりを築くことが可能となり、勤労者生活をより充実させることができるものと思われます。

このような観点から開設された「勤労者ボランティアセンター」は、勤労者が行うボランティア活動に対する企業の理解を求め、さらに、企業の各種の支援（ボランティア休暇・休職制度の導入など）を促進するとともに、勤労者の方々に対してボランティア活動に関する情報を提供すること等により、勤労者がボランティア活動に参加できるような環境づくりを行うこととしています。

勤労者のボランティア活動の分野





◎事業内容

【勤労者のボランティア活動に対する支援・援助の促進】

勤労者がボランティア活動に前向きに参加できるよう、企業や労働組合などの理解と協力を求め、ボランティア休暇・休職制度をはじめとした企業の支援や援助策の導入・普及に協力し、従業員がボランティア活動をしやすい環境づくりを促進しています。

【勤労者のボランティア活動に関する情報の収集・提供・相談】

- ◆勤労者の方々がキャリアや技術を活かして参加できるよう、各種のNPO・ボランティア団体やボランティアを必要とする施設を紹介します。
- ◆勤労者の方々がやっているボランティア活動の事例紹介をします。
- ◆従業員のボランティア活動を積極的に支援している企業の事例を紹介します。
- ◆インターネットのホームページを設け、活動等の情報を提供しています。

年4回「勤労者ボランティア情報」を発行。企業、全国の社会福祉協議会、個人登録者など4000か所に配布しているとのこと。

【ボランティア活動のきっかけとなるセミナーや体験講座の実施】

ボランティア活動に関心がある勤労者の方々がボランティア活動に参加するきっかけとなるようセミナーや体験講座を開催します。

今までに「布の絵本作り」「ガイドヘルプ」などの講座を開きました。今年度は、「日本語ボランティア入門講座」のほか、8月に、一泊二日のボランティア実地体験講座「相模湖森づくりボランティア」、9月初めから全6回の「手話講座」を実施。また、大阪相談コーナーでも「自然観察」「老人ホーム施設訪問」などの講座を実施しています。

最近では、退職前の方たちを対象に、「ボランティア入門」「介護入門」などの講座も開催しました。

西新宿の便利な場所にある勤労者ボランティアセンターの居心地の良い部屋には、いろいろな資料が用意されています。企業の方たちだけでなく、「個人の方にもぜひ、気軽に立ち寄っていただきたい。大歓迎します」と若嶋さんはおっしゃっていました。あたたかい雰囲気を持たせながら、親身になって相談にのってくれる優しい女性です。ボランティアの情報収集に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



「正しい日本語」の根拠

「正しい日本語」とは何か

日本大学講師
福田知行

前回はことばを学ぶときの「規則」と「例外」というものについて「助数詞」と「漢字の音読み」を例に挙げて説明しましたが、言語にはなぜ「規則」と「例外」というものがあるのでしょうか。

それは言語というものがコミュニケーション(情報や感情の伝達)を実現する手段である一方で、たとえば話し手のバランス感覚とか言語の歴史など、それ以外の要因をもその中に含んでいるからだと考えられます。

たとえば、形容詞(イ形容詞)の活用を見てみましょう。

		普通体	丁寧体
現在	肯定	高い	高いです
	否定	高くない	高くないです／高くありません
過去	肯定	高かった	高かったです
	否定	高くなかった	高くなかった／高くありませんでした

この表は、現在、外国人に日本語を教える場合に大体の標準的なものだと考えられますが、筆者が日本語を教えはじめた頃は、「高いです」のように形容詞の基本形に「です」を付けるとなにかしっくりこない表現だという感じを受けたのをいまだに覚えています。それに、丁寧体の否定の活用だけがなぜ2つの形があるのか不思議でなりません(現在は「高くありません」という形を正しい形ではないという人もいます)。これも例外と言えれば例外と言えるでしょう。

なぜこうした両形が否定の場合だけ並列しているかを説明してみましょう。まず、日本語には指定の助動詞「だ」の丁寧形として「です」と「でございます」があります。たとえば「雨だ」

→「雨です／雨でございます」。それと平行して形容詞にも丁寧体を作ってみると「高い」→「高いです／高うございます」となりますが、実は「です」は名詞専用の助動詞で動詞や形容詞には接続できなかったものなのです。

最初は「高い」を丁寧にするには「です」が使えなかった形容詞の連用形「高く」に動詞「ござる」の丁寧形「ございます」を付けて「高うございます」という形を作りました。「高く」が「高う」に変わるのを「う音便」と言います。しかし、この形は少し「敬度」が高すぎる(お

高くとまっている感じがするので、無理やり「です」を形容詞に付けて「敬度」が少し低い形をとりました。作ったというわけです。ですから、形

容詞に付ける「です」は、名詞に付ける「です」とは少し性質が異なります。たとえば、名詞の場合、過去形なら「雨でした」のように「です」が「でした」になりますが、形容詞では「高いでした」ではなく「高かったです」のようにそのまま「です」を使います。

さらに、否定形が2つある理由は、「ある」と「ござる」の否定形、「ありません」と「ございません」の2つが「ない」の丁寧体として考えられ、後者はやはり「敬度」が高すぎるため敬遠され、「高くありません」だけが残り、現在では「高くないです」と併用されるようになったというわけです。

にほんご万華鏡

漢字を使っている国の人たちと日本語を勉強する時は、しばしば漢字を媒介にして意思を伝え合う。しかし、いろいろ落とし穴もある。「手紙」が中国では「トイレットペーパー」だということは、よく知られているかもしれない。

韓国の人たちも漢字を知っているので、新聞など、読めなくても漢字で意味を理解できるという。ある韓国の男性が、「日本人は変だ」という。新聞の見出しに、

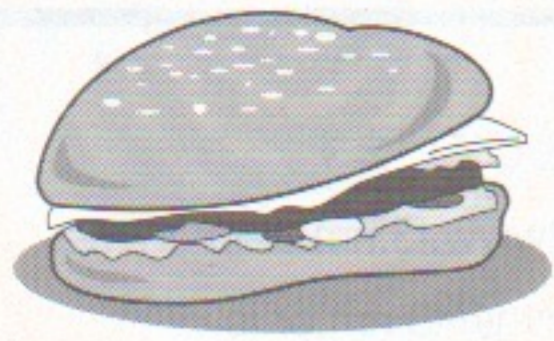
「合理化反対」と書いてあるのを見て、日本人は何故「合理化」を反対するのか、わからないと。最近「リストラ」という語の方がよく見られるが…。

また、かなり日本語が上手な韓国の女性が、隣人の日本女性にいつも、「あなたは本当に八方美人だ」と言っていたとのこと。日本で使われる意味を知ってびっくりしてしまった。韓国では何でもできるすばらしい人を「八方美人」というそう。私は、本来は韓国で使われる意味の方だったのではないかと思う。海を渡って日本に入ってからそのニュアンスを180度変えてしまったのだ。

七夕の伝説は、中国から朝鮮半島や日本に伝わったとみえて、中国人も韓国人も知っている。しかし、七月七日に雨が降った時、意見が分かれた。日本の絵本には雨が降ると牽牛と織女は会えないため、悲しみの涙雨を降らせるとあった。それが中国と韓国では、会えた喜びのうれし涙だという。

(林川 玲子)

※前号の「田無国際交流サークルで、日本語ボランティア講習会を開催」の記事のなかで、講習会のテーマが「日本語ボランティアとは、その現状」とあるは、5月19日のみのテーマでした。また、TNVNから数人が講師として参加したというのは、1人の誤りでした。ここに、お詫びして訂正いたします。



第11回 色とりどりのお弁当

涼しい風が吹き始め、過ごしやすくなってきたら、行楽シーズンの始まりです。そこで、家族や友だちと外出する時に、欠かせないのがお弁当。料理がきれいに詰められたおいしいお弁当は、楽しい思い出のひとつになるでしょう。

お弁当はたいてい朝作って昼に食べるものですから、時間が経ってもおいしいもの、冷めてもおいしいものを考えましょう。

お弁当作りの基本とは？

1. 健康のバランス

肉・魚・卵などを使ってつくる主菜と、野菜などを使ってつくる副菜を、栄養がかたよらないように用意します。

2. 味のメリハリ

味が似たようなおかずばかりでは飽きてしまいます。甘いもの、しょっぱいもの、辛いものといったように、ひとつひとつ違った味覚を心がけましょう。

3. 傷みやすいものは禁止

お弁当をつくってから食べるまでには時間があります。焼くものは中まできちんと火を通し、生ものは避けましょう。温かいものを入れてすぐにふたをするのも、料理が傷む原因となります。

4. 汁けのあるものはダメ

せっかくのおかずも煮汁が混ざり合ってしまうのはおいしくないし、お弁当箱から汁がもれ、カバンの中を汚してしまうことも。汁けはよく切る

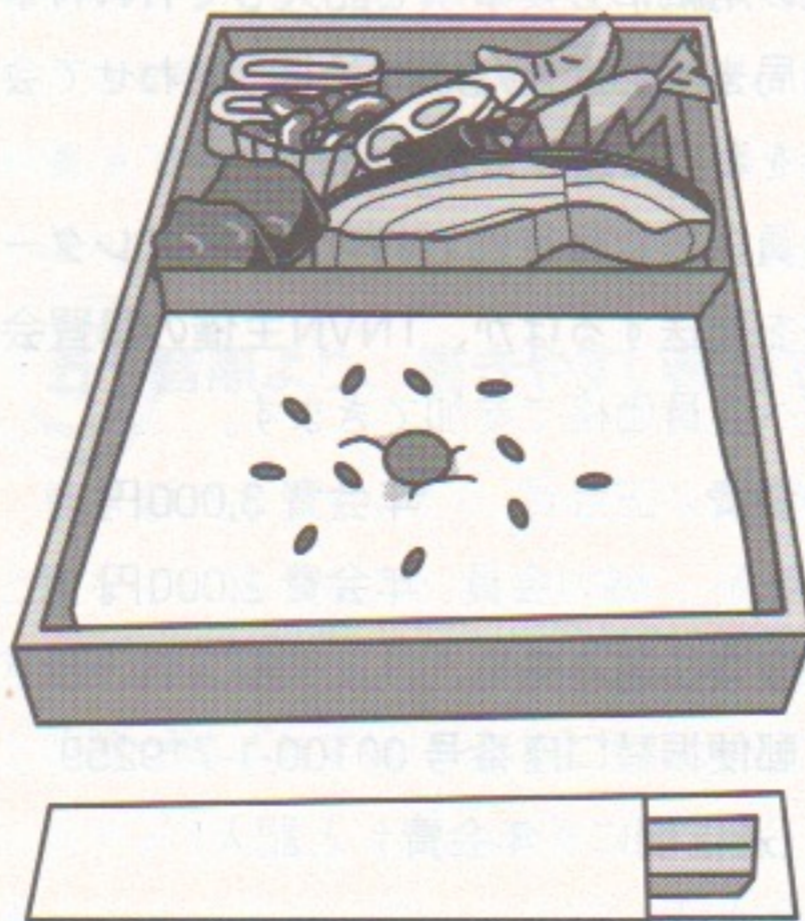
か、よく煮て汁けを飛ばしたり、とろみをつけましょう。

5. 食べやすいサイズ

ひと口で食べられるように、小さくカット。せん切りや乱切りなど、カット法を変えるだけで、見た目も変わってきます。

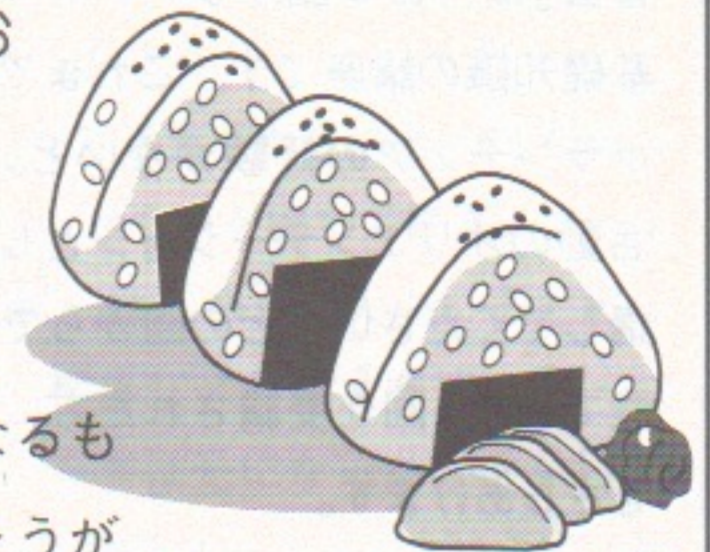
6. 全体的な彩り

お弁当箱のふたを開けた時の彩りも大切。緑の野菜、黄色の卵、茶色のお肉といったように、色のバランスも考えましょう。



ちょっとした工夫が大切

●お弁当特有のにおいを消すには
においの元のひとつは骨や皮。下ごしらえの時に取り除いておきましょう。また、肉や魚は冷めるとにおい



が気になるもの。しょうがやねぎなどの香味野菜を使って料理したり、味噌漬けやかす漬けにすると、においを解消できます。

●水分の出るものを調理するには
水分が出やすい野菜などは強火で手早く炒めるのがポイント。水気をと飛ばせば、他の料理に味が混じりにくくなります。

●傷みを防ぐには
一番気がかりなのは、お弁当による食中毒。特に暑い時期や暖かな場所で保存する場合は、お弁当箱の隅にからしやわさびを置きましょう。からしやわさびには食当たりの原因となる雑菌を防ぐ働きがあります。最近では、お弁当用食品衛生シートなどという、使い捨ての防菌シートも市販されています。

お弁当は、朝早く起きて作らなければならないので、つい手を抜きたくなったりもします。あれこれ考えるとたいへんですが、一番大切なのは“愛情”です。心のこもったお弁当が、何にも優るごちそうということをお忘れずに。

NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。これまでに日本語ボランティアの経験がないという方は、活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

- 10月13日(金) 午後2～4時
- 10月27日(金) 午後6～8時
- 11月10日(金) 午後2～4時
- 11月24日(金) 午後6～8時
- 12月 8日(金) 午後2～4時
- 12月22日(金) 午後6～8時

◆テーマ

- (10月) 日本語学習をどのように支援するか
- (11月) 日本語ボランティアとは?
- (12月) 日本語再発見!

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
会議室 (JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

TNVN宛て郵便物にはメール ボックスナンバーのご記入を!

TNVN事務局は、毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。

TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、なるべく郵便かFAXをお願いします。なお、



TNVN宛ての郵便物・FAXには、右記のメールボックスナンバーのご記入をお願いいたします。

TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス!

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイ

ドの情報も掲載しています。

◆URL : <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

◆MAIL ID : tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

TNVNへの入会を 希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。

会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259

(通信欄に「年会費」と記入)

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付
メールボックス No. 4

TNVN 東京日本語
ボランティア・ネットワーク

TEL : 03-3235-1171

(呼出し/金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週金曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL : 03-3235-1171 (呼出し)

連絡先の変更等は、 郵便かFAXで

正会員(団体)や協力会員(個人)の方で住所変更のあった場合、団体や代表の連絡先が変更になった場合は、TNVN事務局まで郵便やFAXでお知らせください。

また、TNVNを退会される場合も書面で通知していただくようお願いいたします。

新年度の会費納入は お済みですか?

TNVN会員の皆様には、すでに新年度の年会費の振込用紙をお送りしていますが、もう納入はお済みでしょうか。

TNVNは日本語ボランティア団体の民間のネットワークとして、自治体等からの援助もなく、会員からの会費収入とボランティアスタッフの労力によって運営されています。その事情をご理解の上、すみやかな会費の納入にご協力ください。

在住外国人のための 専門家相談

武蔵野市国際交流協会では、在住外国人のための専門家相談を開催します。予約制のものと、予約不要のものがあります。

<予約制の相談>

弁護士・精神科医・社会保険労務士・税理士などの専門家が、在住外国人の在留資格や結婚・離婚・心の相談・保険・税金・労働条件などの相談を受けます。秘密厳守ですから、安心してご相談ください。

◆日時／10月からの毎月第4土曜日

◆会場

武蔵野市国際交流協会シングビル9F
(JR中央線武蔵境駅北口徒歩1分)

◆費用／無料

◆予約／事前に電話予約が必要

◆受付

火～土曜日(祭日除く) 10:00～17:00

◆対応言語

予約受付時の対応言語は

中国語・スペイン語・英語・日本語

相談時の対応言語は18言語

(英語・中国語・ハングル・タイ語・インドネシア語・ベンガル語・ベトナム語・アラビア語・タミル語・ヒンディ語・マレー語・スワヒリ語・スペイン語・ポルトガル語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・日本語)

◆予約・問い合わせ

武蔵野市国際交流協会 (MIA)

TEL : 042-256-2922

<予約不要の相談>

予約不要、無料、通訳付きの「外国人無料相談会」もあります。

◆開催日

12月1日(金) pm6:00～8:00

12月2日(土) pm2:00～8:00

◆会場

武蔵野市国際交流協会シングビル10F

◆問い合わせ

武蔵野市国際交流協会 (MIA)

TEL : 042-256-2922

国際協力フェスティバル 2000 INTERNATIONAL COOPERATION FESTIVAL 2000

「国際協力の日」(10月6日)の前後に開催される「国際協力フェスティバル」は、日本最大の国際協力イベント。NGOや政府機関、国際機関など約200団体が参加します。国際協力に関心のある方、これから国際協力に参加したい方、おいしいエスニック料理を食べたい方、かわいい民族の伝統手工芸品を見たい方、世界の伝統音楽をライブで聞きたい方、皆さん日比谷公園へどうぞ。

◆日時

10月7日(土)、8日(日) 10:00～17:00

◆会場

日比谷公園

(地下鉄 日比谷駅・内幸町駅より徒歩2分、霞ヶ関駅より徒歩3分、JR・地下鉄・有楽町駅より徒歩4分)

◆主催

国際協力フェスティバル2000

実行委員会

「タイ・フードフェスティバル 2000」

30以上のタイ料理店の本格的なタイ料理や、伝統的なタイダンス・ファッションショー、タイ式ボクシングといったタイ文化のショーが楽しめるイベント。色鮮やかなタイの工芸品制作やフルーツ・ベジタブルカービングのデモンストレーションもあります。

◆日時

9月30日(土)、10月1日(日)

10:00～20:00

◆会場

代々木公園イベント広場

◆主催・問い合わせ

タイ王国大使館

TEL : 03-3447-2591

平成11年度日本語教育 実態調査の結果

文化庁では外国人に対する日本語教育推進の基礎資料とするため、昭和42年以来国内の日本語教育の実態調査を実施。平成11年11月現在の調査結果の概要がまとめられ、インターネット上で公開されています。日本語教育に関心のある方は、ご覧ください。

◆調査対象／日本語教育実施機関・施設

◆URL

<http://www.bunka.go.jp/1/2/2E/H11.html>

「東京都高校生留学事業」 ホストファミリー募集

東京国際交流財団では、アジアを中心とする6地域から高校生を一年間受け入れ、東京の家族と学校での生活を体験してもらう「東京都高校生留学事業」を行っています。

草の根の国際交流の場として、その留学生を受け入れてくださる都内の家庭を募集しています。

◆留学生の国籍

インドネシア・オーストラリア・ブラジル・香港・マレーシア・タイ

◆受入期間／2001年3月中旬から1年間

◆募集期間／2000年10月31日(火)まで

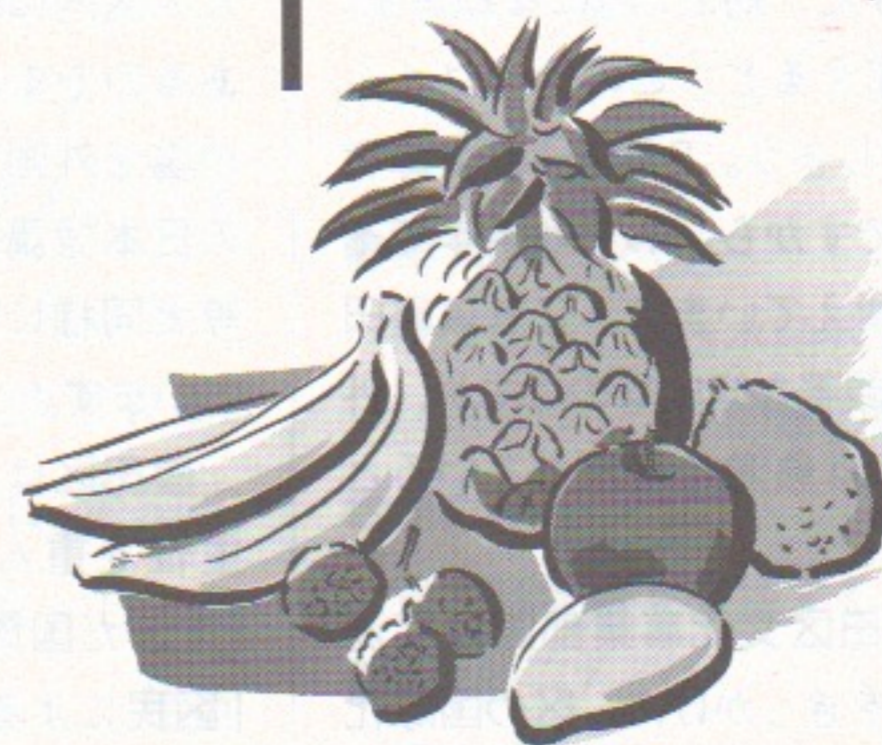
◆申し込み・問い合わせ

財団法人東京国際交流財団

総務部国際交流課

TEL : 03-5221-9027～9

URL <http://www.tif.or.jp>



BULLETIN BOARD

子育てで中断していたグラフィックデザインの仕事にそろそろ復帰したいと考えていた5年前の秋、「今のデザイナーはコンピューター（マッキントッシュ）が使いえないとね」という友人の一言で、コンピューターを購入。ビデオの録画も出来ないようなキカイ音痴の私なので、買ってしまったのは良いけれど、なかなか使いこなせずにいたところ、事務局スタッフの方から「ネットワークニュースをリニューアルするけど、手伝ってくれない？」というお話がありました。自分の勉強のためにもと引き受け、試行錯誤の末誕生したのが1996年4月発行の第9号でした。

その後、自分なりに勉強をし、機材も増やし、デザインの仕事にも復帰し、あっという間に4年半の月日が過ぎました。そういう意味で、ネットワークニュースは私の原点とも言えるものです。日頃、学習者と向き合いながら活動をしている皆様とは違い、コンピューターと向き合いながら作業をしている私は、ボランティア

をしているという自覚はあまりなかったのですが、私のような関わり方ならどんな人でもボランティアに参加できると思います。

そしていつも、皆様から寄せられた原稿の端々から、日本語ボランティアに関わる方々の熱意を感じており、そんな皆様の気持ちを反映するようなより良い誌面をこれからも心がけていきたいと思っています。また、2000年5月発行の第26号からは完全DTP（コンピューターで作ったデータをそのまま印刷屋さんに渡し、それを印刷する）となり、デザインの制約もだいぶなくなったので、もっと楽しく、見やすい誌面をお届けできることでしょう。ただ、この頃は原稿が届くのが締め切りギリギリということが多く、あれこれ考える時間がとれないのがちょっと残念です。日本語ボランティアに関わる皆様、これからもコンピューターの前からバックアップさせていただきます。

鶴田環恵

(ニュースレター・教室ガイドデザイン担当)

地域の日本語ボランティア事情

墨田区発

平成12年8月1日現在、墨田区の総人口は22万3千118人。そのうち外国人登録者数は6千28人、約2.7%になります。未登録者数を加えると、この比率はさらに上がることでしょう。2月1日の登録者数は5千385人ですから、わずか半年でその率は0.3%も増えています。これは墨田区のここ数年の顕著な傾向なのですが、外国籍市民の人口は急激に増加していると言えます。

平成4年に墨田区文化事業部国際交流担当ができたのをきっかけに、区の国際化事業の一環として、まずは日本語ボランティアを育成しようと「外国人に対する日本語教授法講座」が開かれました。この事業は年ごとに趣向を変えながら継続され（平成8年度よりは2年に1回の開催）、現在区内で活動している日本語ボランテ

ィアグループのほとんどは、この講座の受講生が自主的に立ち上げたものです。また、区内にはボランティアグループが6つあるのですが、それとは別に「生涯学習の場を外国籍市民にも」という立場からの日本語講座クラスも、他の英会話講座等と同様に生涯学習センターにて開かれています。

墨田区は、国際交流担当の「区民の自主性を重んじる方針」のおかげもあり、「すみだ国際交流ネットワーク会議」等「区民による自主的な共生への歩み寄り」がさかんな地域です。日本語ボランティアグループ同士での情報交換はもちろん、今後はその他の「国際化」に関わるグループ等との連携も課題となっていくでしょう。

上野悦子（すみだ日本語ボランティア21）

SPECIAL THANKS

★財団法人

勤労者リフレッシュ事業振興財団
勤労者ボランティアセンター様
快く取材に応じていただきました。

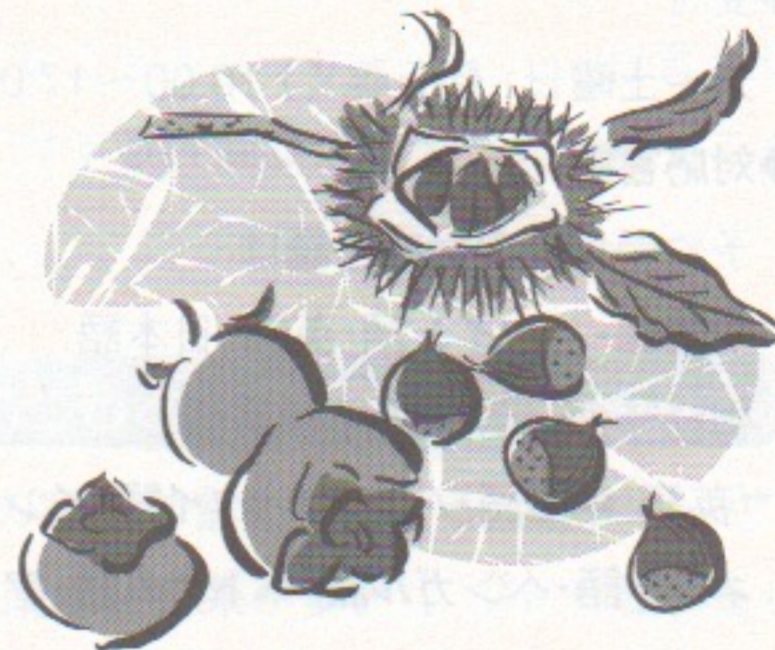
WELCOME!
新入会員のご紹介

◆協力会員(個人)

茶郷 穰、中川 和香子
柳沢 好昭、山崎 賢司

(敬称略)

2000年9月20日現在の会員数は、正会員70団体・協力会員87名・賛助会員8です。



編集後記

●夏休みが終わったら、秋はイベントの季節。日本語教室でも、スポーツ・パーティー・料理教室など、さまざまなイベントを企画していることと思います。TNVN事務局もいろいろなお話をいただくものの、スタッフ不足が悩みのタネ。毎週金曜日の事務局活動やニュースレターの編集をお手伝いいただける方からのご連絡をお待ちしています。



発行人/中田 紀子
編集人/前田 恭子
レイアウト/鶴田 環恵